



チャットの管理

- [チャット管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [チャットの前提条件の管理 \(2 ページ\)](#)
- [チャットのタスクフローの管理 \(3 ページ\)](#)
- [チャット相互作用の管理 \(21 ページ\)](#)

チャット管理の概要

IM and Presence サービスでは、チャットルームを管理したり、チャットルームにアクセスできる人を制御したりするために使用できる設定が提供されます。これには次の機能が含まれます。

- 新しいルームを作成したり、作成したルームのメンバーおよび設定を管理します。
- そのルームのメンバーだけがアクセスできるように永続的なチャットルームへのアクセスを制限する。
- チャットルームに管理者を割り当てます。
- ルームに他のユーザを招待します。
- ルームに表示されるメンバーのプレゼンスステータスを確認します。ルームに表示されるプレゼンスステータスは、ルームへのメンバーの参加を示しますが、全体のプレゼンスステータスが反映されないことがあります。

IM and Presence Service では、チャットノードのエイリアスも管理できます。チャットノードエイリアスを使用すると、ユーザが特定のノード上の特定のチャットルームを検索し、それらのチャットルームに参加できます。

さらに、IM and Presence サービスはトランスクリプトを保存し、このチャットルームの履歴を、チャットルームに参加したばかりのメンバーを含むルームメンバーにも利用できるようにします。新旧のメンバーが利用できるようにする既存のアーカイブの量を設定できます。

チャットノードエイリアスの概要

システムの各チャットノードに一意のエイリアスが必要です。チャットノードエイリアスは、(任意のドメイン内の) ユーザが特定のノード上の特定のチャットルームを検索し、これらのルームのチャットに入室できるように各チャットノードに一意のアドレスを作成します。

チャットノードエイリアスは、そのノード上に作成された各チャットルームの一意の ID の一部を形成します。たとえば、エイリアス `conference-3-mycup.cisco.com` は、そのノードに作成されたチャットルーム `roomjid@conference-3-mycup.cisco.com` の名前付けに使用されます。

チャットノードエイリアスを割り当てるには、2つのモードがあります。

- システム生成 - システムは各チャットノードに一意のエイリアスを自動的に割り当てます。システムは、命名規則 `conference-x-clusterid.domain` を使用して、デフォルトではチャットノードごとに1個のエイリアスを自動生成します。
 - `conference` はハードコードされたキーワードです
 - `x` はノード ID を示す一意の整数値です
 - `clusterid` は構成されたエンタープライズパラメータです
 - ドメイン構成済みドメインです

たとえば、システムは次のように割り当てます。 `conference-3-mycup.cisco.com`

- 手動 - チャットノードエイリアスを手動で割り当てるには、システム生成エイリアスを無効にする必要があります。手動管理されたエイリアスにより、特定の要件に合うエイリアスを使用してチャットノードに名前を付けられる完全な柔軟性が得られます。たとえば、`congerence-x-clusterid.domain` 命名規則がデプロイメントのニーズに合わない場合に、次のようにします。

ノードごとに複数のエイリアスを割り当てる

ノード単位で各チャットノードに複数のエイリアスを関連付けることができます。ノードごとに複数のエイリアスを関連付けると、ユーザはこれらのエイリアスを使用して追加のチャットルームを作成できます。この機能は、システム生成のエイリアスと手動で作成されたエイリアスの両方に適用されます。

チャットの前提条件の管理

常設チャットが有効になっていることを確認してください。

チャットのタスクフローの管理

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	チャットルーム所有者がチャットルーム設定を編集できるようにする (4 ページ)	チャットルームの所有者がチャットルームの設定を編集できるようにするかどうかを設定します。それ以外の場合は、管理者だけがチャットルーム設定を編集できます。
ステップ2	クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可 (5 ページ)	ユーザがインスタントメッセージ履歴をローカルでコンピューターに記録することを防止または許可できます。
ステップ3	常設チャットルームの作成とホームクラスタの制限 (6 ページ)	Cisco Jabber ユーザホームクラスタ内の常設チャットルームの作成を制限するには、この手順を使用します。
ステップ4	外部データベーステキスト会議レポートの表示 (7 ページ)	この手順を使用して、常設チャットルームの詳細を表示できる外部データベーステキスト会議レポートを表示します。
ステップ5	常設チャットルームの所有移行 (7 ページ)	ホームクラスタに属する常設チャットルームの所有物を、チャットルームの他の既存のメンバーに転送するには、この手順を使用します。
ステップ6	常設チャットエイリアスのレポート (9 ページ)	チャットルームの数を、外部データベースに存在する独自のクラスタエイリアスとピアクラスタエイリアスで表示するには、次の手順を使用します。
ステップ7	<p>チャットルーム設定を編集します。チャットルームの設定を更新するには、以下のタスクを任意の順序で実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チャットルーム数の設定 (9 ページ) • チャットルームメンバー設定を設定します (10 ページ) • 可用性の設定 (11 ページ) • 利用者数の設定 (13 ページ) 	(注) 常設チャット設定を更新する場合、Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動するために [Cisco Unified IM and Presence サービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。

	コマンドまたはアクション	目的
	<ul style="list-style-type: none"> • チャットメッセージの設定 (14 ページ) • モデレータ管理されたルームの設定 (15 ページ) • 履歴の設定 (15 ページ) 	
ステップ 8	チャットルームをシステムのデフォルトにリセットします (16 ページ)	チャット設定をシステムデフォルトにリセットする場合は、このオプションの作業を完了してください。アドホックチャットはデフォルトで有効になっていますが、常設チャットはデフォルトで無効になっています。このタスクを完了すると、常設チャットが無効になります。
ステップ 9	チャットノードのエイリアスの管理 (16 ページ)	エイリアスは、(任意のドメイン内の) ユーザが特定のノード上の特定のチャットルームを検索し、これらのルームのチャットに入室できるように各チャットノードに一意のアドレスを作成します。システムの各チャットノードに一意のエイリアスが必要です。
ステップ 10	常設チャット用の外部データベースの消去 (19 ページ)	これはオプションです。外部データベースを監視し、期限切れのレコードを削除するジョブを設定するには、外部データベースクリーンアップユーティリティを使用します。これにより、新しいレコード用に常に十分なディスク容量が確保されます。

チャットルーム所有者がチャットルーム設定を編集できるようにする

チャットルームの所有者がチャットルームの設定を編集できるようにする場合は、この手順を使用します。



(注) クライアントからこれらの設定をどの程度行えるかは、クライアントの実装や、クライアントがこれらの設定を行うインターフェイスを提供しているかどうかで決まります。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 2 ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only) チェックボックスの値を設定します。
- チェック済み - チャットルームの所有者は、チャットルームの設定を編集する管理権限を持っています。
 - チェックなし - 管理者だけがチャットルーム設定を編集できます。
- ステップ 3 [保存] をクリックします。
- ステップ 4 [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 5 Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。
-

クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可

ユーザがコンピュータでインスタントメッセージ履歴をローカルにログ記録することを防止または許可できます。クライアント側では、アプリケーションがこの機能をサポートしている必要があります。これは、インスタントメッセージのログ記録の防止を実行する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration で、[メッセージング (Messaging)] > [設定 (Settings)] を選択します。
- ステップ 2 次のようにインスタントメッセージ履歴のログ記録の設定を行います。
- クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence サービスでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可する場合は、[クライアントでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可 (サポートされるクライアントでのみ) (Allow clients to log instant message history (on supported clients only))] をオンにしてください。
 - クライアントアプリケーションのユーザに IM and Presence サービスでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可しない場合は、[クライアントでインスタントメッセージ履歴のログ記録を許可 (サポートされるクライアントでのみ) (Allow clients to log instant message history (on supported clients only))] をオフにしてください。
- ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。
-

常設チャットルームの作成とホームクラスタの制限



重要 この機能は、リリース 14 SU1 以降に適用されます。

Cisco Jabber ユーザホームクラスタ内の常設チャットルームの作成を制限するには、この手順を使用します。この機能により、クラスタ間トラフィックが減少し、システム帯域幅が増加します。

IM and Presence サービスの管理者は、ホームクラスタ上のユーザによって作成された全チャットルームを管理します。他のクラスタのメンテナンスアクティビティは、ホームクラスタ内のユーザによって作成されたチャットルームには影響を与えません。

始める前に



重要 リリース 14SU1 以降でサポートされます。

- 常設チャットが有効になっていることを確認します。
- この機能を有効にする前に、[グループチャットと常設チャットの設定に関するエイリアスレポート] ウィンドウを確認してください。詳細については、[常設チャットエイリアスのレポート \(9 ページ\)](#) を参照してください。
- この機能をサポートするには、Cisco Jabber 14.1 バージョン以上が必要です。

手順

- ステップ 1** データベースパブリッシュャノードで **Cisco Unified CM IM and Presence サービス管理** にログインします。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットと常設チャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 3** [常設チャットの有効化] 下で、[ホームクラスタにルームの作成を制限する] チェックボックスをオンにします。

次のタスク

ホームクラスタ内のすべてのノードで **Cisco XCP テキスト会議マネージャサービス** を再起動します。

外部データベーステキスト会議レポートの表示

この手順を使用して、外部データベースのテキスト会議レポートを表示します。このレポートを使用すると、展開内の常設および ad-hoc チャットルームの詳細を表示できます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM IM and Presence 管理にログインします。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットと常設チャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 3** 常設チャットデータベースの割り当てで、[ルームレポート (Room Report)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 選択範囲を特定の基準を満たす会議室に限定する場合は、フィルタツールを使用します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** 特定のチャットルームを選択してそのルームの詳細を表示します。

(注) データベースから取得されるレコードの数は、[レコード取得] ドロップダウンリストから選択した値によって異なります。

常設チャットルームの所有移行



重要 この機能は、リリース 14 SU1 以降に適用されます。

GUIにアクセスできる IM and Presence サービスの管理者が、常設チャットルームの所有を移行するには、次の手順を実行します。

たとえば、Johnは常設チャットルームを作成し、数名のメンバーを追加しました。後で組織から離れる場合です。

Johnが唯一の常設チャットルームの所有者であり、ルームの所有者機能が特定のルームに対して引き続き必要な場合、IM and Presence サービスの管理者は、1つ以上の現在のルームメンバーを新しいルームの所有者として選択できます。

所有者 ID の更新中は、次の点を検討してください。

- チャットルームの所有物を、前の所有者と同じホームクラスタに属するチャットルームメンバーに変更できます。
- 所有者 ID は、ユーザ ID ではなく、ユーザ JID である必要があります。
- 入力した所有者 ID が IM and Presence サービスノードデータベースに対して検証されます。

- 管理者は、チャットルームの新しい所有者 ID としてルームの作成者の ID を設定することはできません。

チャットルームの所有を変更するには、次の手順を実行します。

始める前に



重要 リリース 14SU1 以降でサポートされます。

所有者 ID を更新する前に、ホームクラスタ内のすべての IM and Presence サービスノードの Cisco XCP テキスト会議マネージャサービスを停止します。

手順

- ステップ 1** データベースパブリッシャノードで **Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス管理** にログインします。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] と選択します。
- ステップ 3** 常設チャットデータベースの割り当てで、[ルームレポート (Room Report)] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 選択範囲を特定の基準を満たす会議室に限定する場合は、フィルタツールを使用し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** (オプション) **Room JID** をクリックして、所有者のリスト、メンバーのリスト、最後のメッセージの日付などの PChat ルーム欄を表示します。ルーム欄の詳細と説明については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [所有者 ID] フィールドを編集するには、**Room JID** のチェックボックスをオンにします。
(注) 所有者 ID カラムは、ホームクラスタに属する常設チャットルームでのみ編集できます。
- ステップ 7** 新しい所有者として作成するチャットルームメンバーの **所有者 ID** を電子メール形式で入力します。
- ステップ 8** [所有者 ID の更新] をクリックします。
これにより、選択した 1 つ以上の常設チャットルームの所有者と同じ **所有者 ID** が更新されます。

次のタスク

ホームクラスタ内のすべてのノードで **Cisco XCP テキスト会議マネージャサービス** を開始します。

常設チャットエイリアスのレポート

チャットルームの数と、外部データベースに存在するホームクラスタエイリアスとピアクラスタエイリアスを表示できる外部データベース常設チャットエイリアスレポートを表示するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** データベースパブリッシュャノードで **Cisco Unified CM IM and Presence サービス管理** にログインします。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットと常設チャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 3** 常設チャットデータベースの割り当てで、ドロップダウンリストから [外部データベース] を選択します。
- ステップ 4** [エイリアスレポート] ボタンをクリックします。フィールドの説明については、オンラインヘルプを参照してください。

チャットルーム設定を設定します

チャットルーム数の設定

ユーザが作成できるルーム数を制限するには、ルーム設定を使用します。チャットルームの数を制限すると、システムのパフォーマンスをサポートし、拡張できます。ルーム数の制限は、起こり得るサービスレベル攻撃の軽減にも役立ちます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 2** 許可したチャットルームの最大数を変更するには、[許可されるルームの最大数 (Maximum number of rooms allowed)] のフィールドに値を入力します。デフォルトでは 5500 に設定されています。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。

チャットルームメンバー設定を設定します

メンバー設定では、チャットルームのメンバーシップを制御できます。このような制御は、メンバーシップの制御によって防止できるサービスレベル攻撃を軽減する上でユーザの役に立ちます。必要に応じてメンバーを設定します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 2** ルームメンバーの設定の説明に従って、ルームメンバーの設定を構成します。
- ステップ 3** [保存] をクリックします。
- ステップ 4** [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 5** Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。
-

ルームメンバーの設定



- (注) 常設チャットルームは、作成時のセットアップを継承します。後で行った変更は、既存のルームには適用されません。これらの変更は、変更を有効にした後で、作成されたルームにのみ適用されます。

表 1:

フィールド	説明
デフォルトではルームはメンバー専用です (Rooms are for members only by default)	<p>デフォルトでメンバー専用ルームとしてルームを作成する場合は、このチェックボックスをオンにします。メンバー専用ルームには、そのルームの所有者または管理者が設定した許可リストのユーザのみがアクセスできます。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。</p> <p>(注) 許可リストにはそのルームに許可されているメンバーのリストが含まれています。このリストは、メンバー専用ルームの所有者または管理者によって作成されます。</p>

フィールド	説明
他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターのみです (Only moderators can invite people to members-only rooms)	モデレーターのみがルームへのユーザの招待を行えるようにルームを設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにしている場合は、メンバーが他のユーザをルームに参加するよう招待できます。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only)	メンバー専用のルームかどうかをルーム所有者が変更できるように設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。 (注) ルーム所有者は、そのルームを作成したユーザか、(許可されている場合は) ルーム作成者または所有者によって所有者ステータスを持つ者として指定されたユーザです。ルーム所有者は、ルーム設定の変更やルーム破棄のほか、その他のすべての管理機能を実行できます。
ルームのオーナーは、他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターに限定するかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not only moderators can invite people to members-only rooms)	ルームの所有者にメンバーが他のユーザをルームに招待できるようにルームを設定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ユーザは自分自身をメンバーとしてルームに追加できます (Users can add themselves to rooms as members)	すべてのユーザがルームへの入室をいつでも要求できるようにルームを設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスがオンになっている場合、ルームはオープンメンバーシップになります。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
ルームのオーナーは、ユーザが自分自身をメンバーとしてルームに追加できるようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether users can add themselves to rooms as members)	ステップ 5 に記載されている設定をルーム所有者がいつでも変更できるようにルームを設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

可用性の設定

アベイラビリティの設定は、ルーム内のユーザの可視性を決定します。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。
- ステップ 2** 可用性の設定の説明に従って、可用性メンバーの設定を構成します。
- ステップ 3** [保存] をクリックします。
- ステップ 4** [Cisco Unified IM and Presenceのサービスアビリティ (Cisco Unified IM and Presence Serviceability)] で、[ツール (Tools)] > [コントロールセンター-機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 5** Cisco XCP Text Conference Manager サービスを再起動します。

可用性の設定

フィールド	説明
ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままです (Members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	ユーザが現在オフラインの場合でも、ユーザをルームリストに登録したい場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。 (注) 管理者がチャットルームを退出しても、管理者のユーザIDはチャットルームに表示されます。ユーザはチャットルームを閉じて再度開き、ユーザのリストを更新する必要があります。
ルームのオーナーは、ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	部屋の所有者がメンバーまたは管理者の表示を変更できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
ルームは古いクライアントと下位互換性があります (Rooms are backwards-compatible with older clients)	このサービスを古いグループチャット1.0クライアントで正常に機能させる場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

フィールド	説明
ルームのオーナーは、ルームが古いクライアントと下位互換性があるかようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether rooms are backwards-compatible with older clients)	部屋の所有者がチャットルームの下位互換性を制御できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
デフォルトで、ルームは匿名です (Rooms are anonymous by default)	ルームにユーザのニックネームは表示しても、Jabber ID は公開しない場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。
ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are anonymous)	ユーザの Jabber ID の匿名レベルをルーム所有者が管理できるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

利用者数の設定

占有設定は、特定の時間にチャットルームに参加できるユーザ数を決定します。

手順

- ステップ 1** ルーム内で許可されるユーザのシステム最大数を変更するには、**[同時にルームに入室できるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)]** のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 1000 に設定されています。
- (注) ルーム内のユーザの総数は、設定する値を超えることはできません。ルーム内のユーザの総数には、通常のユーザと非表示のユーザの両方が含まれます。
- ステップ 2** ルーム内で許可される非表示ユーザの数を変更するには、**[同時に入室できる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)]** のフィールドに値を入力します。非表示のユーザは他のユーザには表示されません。また、ルームにメッセージを送信できません。さらに、プレゼンス更新を送信しません。非表示のユーザは、ルーム内のすべてのメッセージを表示したり、他のユーザのプレゼンス更新を受信したりできます。デフォルト値は 1000 です。
- ステップ 3** ルーム内に許可されるユーザのデフォルトの最大数を変更するには、**[デフォルトのルーム最大利用者数 (Default maximum occupancy for a room)]** のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 50 に設定され、ステップ 1 で設定された値よりも大きくできません。
- ステップ 4** デフォルトのルーム利用者数をルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム所有者がデフォルトのルーム最大利用者数を変更できます (Room owners can change default maximum occupancy for a room)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ5 [保存 (Save)]をクリックします。

チャットメッセージの設定

チャットメッセージ設定を使用して、役割に基づいた特権をユーザに付与します。ほとんどの場合、役割は、ビジターからモデレーターへの階層に存在します。たとえば、参加者はビジターができることはすべて実行できます。また、モデレーターは参加者ができることはすべて実行できます。

デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

手順

ステップ1 [ルーム内からプライベートメッセージを送信するためにユーザに必要な最小参加レベル (Lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)]のドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。

- [ビジター (Visitor)]を選択すると、ビジター、参加者、およびモデレータがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信できます。これはデフォルト設定です。
- [参加者 (Participant)]を選択すると、参加者およびモデレーターがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信できます。
- [モデレータ (Moderator)]を選択すると、モデレーターのみがルーム内の他のユーザにプライベートメッセージを送信できます。

ステップ2 プライベートメッセージの最小参加レベルをルーム所有者が変更できるようにする場合は、[ルーム内からプライベートメッセージを送信するためにユーザに必要な最小参加レベルをルーム所有者が変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)]チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ3 [ルームの件名を変更するためにユーザに必要な最小参加レベル (Lowest participation level a user can have to change a room's subject)]のドロップダウンリストから次のいずれかを選択します。

- a) [参加者 (Participant)]を選択すると、参加者およびモデレータがルームの件名を変更できます。これがデフォルト設定です。
- b) [モデレータ (Moderator)]を選択すると、モデレータのみがルームの件名を変更できます。

ビジターは、ルームの件名を変更できません。

ステップ4 ルームの件名を更新するための最小参加者レベルをルーム所有者が変更できるようにする場合は、[ルームの件名を変更するためにユーザに必要な最小参加レベルをルーム所有者が変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to change a room's subject)]チェックボックスをオンにします。

ステップ5 メッセージからすべての拡張可能ハイパーテキストマークアップ言語 (XHTML) を削除する場合は、[すべてのXHTMLフォーマットをメッセージから削除します (Remove all XHTML

formatting from messages)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

ステップ 6 XHTML フォーマット設定をルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム所有者が XHTML フォーマット設定を変更できます (Room owners can change XHTML formatting setting)]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

ステップ 7 **[保存 (Save)]** をクリックします。

モデレータ管理されたルームの設定

モデレータが管理するルームは、ルーム内のボイス特権を付与または取り消す機能をモデレータに提供します (グループチャットの場合、ボイスはチャットメッセージをルームに送信する機能のことです)。ビジターはモデレータが管理するルームでインスタントメッセージを送信できません。

手順

ステップ 1 モデレータの役割をルームで適用する場合は、**[デフォルトでモデレータがルームを管理します (Rooms are moderated by default)]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

ステップ 2 ルームをモデレータが管理するかどうかをルーム所有者が変更できるようにするには、**[デフォルトでモデレータがルームを管理するかどうかをルーム所有者が変更できます (Room owners can change whether rooms are moderated by default)]** チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ステップ 3 **[保存 (Save)]** をクリックします。

履歴の設定

履歴設定を使用して、ルームで取得し、表示するメッセージのデフォルト値および最大値を設定し、履歴クエリを使用して取得できるメッセージ数を管理します。ユーザがルームに入室すると、そのユーザはルームのメッセージ履歴に送信されます。履歴設定は、ユーザが受信する過去のメッセージ数を決定します。

手順

ステップ 1 ユーザがアーカイブから取得できるメッセージの最大数を変更するには、**[アーカイブから取得できるメッセージの最大数 (Maximum number of messages that can be retrieved from the archive)]** のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 100 に設定されます。これは、次の設定の上限として機能します。

ステップ 2 ユーザがチャットルームに入室するときに表示される以前のメッセージの数を変更するには、**[デフォルトで表示されるチャット履歴内のメッセージ数 (Number of messages in chat history)]**

displayed by default] のフィールドに値を入力します。デフォルト値は 15 に設定され、ステップ 1 で設定された値よりも大きくできません。

ステップ 3 ユーザーがチャットルームに入室したときに表示される以前のメッセージの数をルーム所有者が変更できるようにする場合は、**[ルーム所有者がチャット履歴に表示されるメッセージ数を変更できます (Room owners can change the number of messages displayed in chat history)]** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスは、デフォルトでオフになっています。

ステップ 4 **[保存 (Save)]** をクリックします。

チャットルームをシステムのデフォルトにリセットします

アドホックチャットルームと常設チャットルームの両方のグループチャット設定をシステムのデフォルトにリセットする場合は、この手順を使用します。



(注) アドホックチャットはデフォルトで有効になっていますが、常設チャットはデフォルトで無効になっています。このタスクを完了すると、常設チャットが無効になります

手順

ステップ 1 **Cisco Unified CM IM and Presence Administration** で、**[メッセージング (Messaging)]** > **[設定 (Settings)]** を選択します。

ステップ 2 **[デフォルトに設定 (Set to Default)]** をクリックします。

ステップ 3 **[保存 (Save)]** をクリックします。

チャット ノード エイリアスの管理

チャット ノードのエイリアスの管理

これらのタスクを実行して、クラスターのチャットノードエイリアスを管理します。システムにエイリアスを自動的に管理させることも、自分でエイリアスを更新することもできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	チャットエイリアスの管理にモードを割り当てます (17 ページ)	システムにチャットノードエイリアスを管理させるのか、手動で管理させるのかを割り当てます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	チャットノードエイリアスを手動で追加 (18 ページ)	クラスターのチャットノードエイリアスを追加、編集、または削除します。

チャットエイリアスの管理にモードを割り当てます

システムを使用してチャットノードエイリアスを `conference-x-clusterid.domain` 命名規則を使って自動的に割り当てるかどうか、またはそれらを手動で割り当てるかどうかを設定します。

始める前に

チャットノードのエイリアスについては、[チャットノードエイリアスの概要 \(2 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[メッセージング (Messaging)] > [グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)] を選択します。

ステップ 2 システムで生成されたエイリアスを有効または無効にします。

- システムがチャットノードのエイリアスを自動的に割り当てるようにしたい場合は、システムがプライマリグループチャットサーバのエイリアスを自動的に管理しますをチェックします。

ヒント [メッセージング (Messaging)] > [グループチャットサーバのエイリアスマッピング (Group Chat Server Alias Mapping)] を選択して、システムで生成されたエイリアスが [プライマリグループサーバのエイリアス (Primary Group Chat Server Aliases)] の下にリストされていることを確認します。

- チャットノードエイリアスを手動で割り当てたい場合は、[System Automatically Manages Primary Group チャットサーバエイリアス (System Automatically Manages Primary Group Chat Server Aliases)] をオフにします。

次のタスク

- チャットノードにシステムで生成されたエイリアスを設定する場合でも、ノードと複数のエイリアスを必要に応じて関連付けることができます。
- 外部ドメインとフェデレーションすると、エイリアスが変更され、新しいエイリアスが使用可能であることをフェデレーション相手に通知する場合があります。すべてのエイリアスを外部にアドバタイズするには、DNSを設定し、DNSレコードとしてエイリアスをパブリッシュします。

- システム生成エイリアス設定を更新したら、これらの操作のいずれかを実行します：Cisco XCP Text Conference Manager の再起動。
- チャットノードエイリアスを追加、編集、または削除するには、[チャットノードエイリアスを手動で追加（18 ページ）](#)。

チャットノードエイリアスを手動で追加

この手順を使用して、手動でチャットノードのエイリアスを追加、編集、または削除します。手動でチャットノードのエイリアスを管理するには、システムで生成されたエイリアスを使用するデフォルト設定をオフにする必要があります。システムで生成されたエイリアスをオフにすると、既存のエイリアス（conference-x-clusterid.domain）は、[会議サーバのエイリアス（Conference Server Aliases）]の下にリストされる標準の編集可能なエイリアスに戻ります。これにより、古いエイリアスとそのエイリアスに関連付けられているチャットルームのアドレスが維持されます。

チャットノードに手動で複数のエイリアスを割り当てることができます。システムで生成されたエイリアスがチャットノードにすでに存在する場合でも、ノードに追加エイリアスを手動で関連付けることができます。

手動管理されるエイリアスでは、クラスタ ID またはドメインが変更された場合、手動でエイリアスリストを更新するのは管理者の責任です。システムで生成されたエイリアスが変更された値を自動的に組み込みます。



- (注) これは必須ではありませんが、ノードに新しいチャットノードのエイリアスを割り当てる場合はドメインを常に含めることを推奨します。追加エイリアスには、newalias.domain の表記を使用します。ドメインを確認するには、[Cisco Unified CM IM and Presenceの管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）]>[プレゼンスの設定（Presence Settings）]>[詳細設定（Advanced Settings）]を選択します。

始める前に

[チャットエイリアスの管理にモードを割り当てます（17 ページ）](#)

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presenceの管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] で、[メッセージング（Messaging）]>[グループチャットサーバエイリアスマッピング（Group Chat Server Alias Mapping）]を選択します。
- ステップ 2** [検索(Find)] をクリックします。
[グループチャットサーバエイリアス]ウィンドウに既存のノードエイリアスが表示されます。
- ステップ 3** 新しいエイリアスを追加するには
 - a) [新規追加] をクリックします。

- b) グループチャットサーバのエイリアスフィールドに、新しいエイリアスを入力します。
- c) サーバの名前ドロップダウンリストボックスから、エイリアスを割り当てるサーバを選択します。
- d) **[保存]** をクリックします。

ステップ 4 既存のエイリアスを編集するには

- a) エイリアスを選択します。
- b) 更新を入力して**保存**をクリックします。

ステップ 5 エイリアスを削除するには、エイリアスを選択して **[選択内容を削除 (Delete Selected)]** をクリックします。

次のタスク

- Cisco XCP Text Conference Manager をオンにする。

チャットノードエイリアスのトラブルシューティングのヒント

- どのチャットノードのエイリアスも一意でなければなりません。システムはクラスタ全体に重複したチャットノードのエイリアスを作成することを防ぎます。
- チャットノードのエイリアス名を IM and Presence ドメイン名と同じにすることはできません。
- 古いエイリアスでチャットルームのアドレスを維持する必要がなくなった場合に限り古いエイリアスを削除します。
- 外部ドメインとフェデレーションすると、エイリアスが変更され、新しいエイリアスが使用可能であることをフェデレーション相手に通知する場合があります。すべてのエイリアスを外部にアドバタイズするには、DNS を設定し、DNS レコードとしてエイリアスをパブリッシュします。
- チャットノードのエイリアス設定のいずれかを更新したら、Cisco XCP Text Conference Manager を再起動します。

常設チャット用の外部データベースの消去

外部データベースを監視し、期限切れのレコードを削除するジョブを設定します。これにより、新しいレコード用に常に十分なディスク容量が確保されます。

常設チャットのデータベーステーブルを消去するには、必ず**機能テーブル**の下にある**テキスト会議 (TC)** を選択します。

手順

ステップ1 データベース パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration にログインします。

ステップ2 [メッセージング (Messaging)] > [外部データベースの設定 (External Server Setup)] > [外部データベース ジョブ (External Databases Jobs)] を選択します。

ステップ3 外部 DB を消去しますをクリックします。

ステップ4 次のいずれかを実行します。

- パブリッシャノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップするには、**SameCup ノード**を選択します。
- 加入者ノードに接続する外部データベースを手動でクリーンアップするには、**その他の CupNode** を選択してから、外部データベースの詳細を選択します。
- 外部データベースを自動的に監視および消去するようにシステムを設定している場合は、**自動クリーンアップ**ラジオボタンをチェックします。

(注) 自動クリーンアップを設定する前に手動クリーンアップを実行することをお勧めします。

ステップ5 ファイル削除のために戻りたい**日数**を設定します。たとえば、**90** と入力すると、システムは 90 日以上経過したレコードを削除します。

ステップ6 **スキーマを更新**をクリックしてデータベースのインデックスとストアードプロシージャを作成します。

(注) スキーマを更新する必要があるのは、ジョブを初めて実行したときだけです。

ステップ7 ファイル削除のために戻りたい**日数**を設定します。たとえば、**90** と入力すると、システムは 90 日以上経過したレコードを削除します。

ステップ8 **機能テーブル**セクションで、レコードをクリーンアップするための各機能を選択します。

- **テキスト会議 (TC)** - 常設チャット機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。
- **メッセージアーカイバ (MA)** - Message Archiver 機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。
- **マネージドファイル転送 (MFT)** - マネージドファイル転送機能のデータベーステーブルを消去するには、このオプションを選択します。

ステップ9 [クリーンアップジョブを送信 (Submit Clean-up Job)] をクリックします。

(注) [自動 (Automatic)] オプションが有効になっていて、それを無効にする場合は、[自動クリーンアップジョブの無効化 (Disable Automatic Clean-up Job)] ボタンをクリックします。

チャット相互作用の管理

チャット ノードのエイリアスを変更すると、データベースのチャット ルームのアドレス指定が不可能になり、ユーザが既存のチャット ルームを検索できなくなることがあります。

エイリアスまたは他のノードの依存関係の構成部分を変更する前にこれらの結果に注意してください。

- クラスタ ID : この値は完全修飾クラスタ名 (FQDN) の一部です。クラスタ ID を変更 ([システム (System)][プレゼンス トポロジの設定 (Presence Topology Settings)] を選択) すると、FQDN はクラスタ全体で自動的に変更される新しい値およびシステム管理されたエイリアスを組み込みます。手動管理されたエイリアスでは、クラスタ ID が変更された場合、手動でエイリアス リストを更新するのは管理者の責任です。
- ドメイン : この値は FQDN の一部です。ドメインを変更 ([プレゼンス (Presence)][プレゼンスの設定 (Presence Settings)] を選択) すると、FQDN はクラスタ全体で自動的に変更される新しい値およびシステム管理されたエイリアスを組み込みます。手動管理されたエイリアスでは、ドメインが変更された場合、手動でエイリアス リストを更新するのは管理者の責任です。
- チャット ノードと外部データベース間の接続 : 永続的なチャットが有効で、外部データベースとの適切な接続が維持されていない場合、チャット ノードは起動しません。
- チャット ノードの削除 : プレゼンス トポロジから既存のエイリアスに関連付けられているノードを削除した場合、それ以上の処理を行わない限り、その古いエイリアスを使用して作成したチャット ルームをアドレス指定できないことがあります。

変更の広い影響を考慮せずに既存のエイリアスを変更しないことを推奨します。つまり、次のようにします。

- ユーザが必要に応じて古いエイリアスによって既存のチャット ルームを検索できるように、データベースに古いチャット ノードのアドレスを維持します。
- 外部ドメインとのフェデレーションがある場合、DNS エイリアスをパブリッシュして、エイリアスに変更され、新しいアドレスが使用可能であることをそのドメインのユーザに通知する必要があります。これはすべてのエイリアスを外部にアドバタイズするかどうかによって異なります。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。